

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

第2四半期以降の当社グループを取り巻く世界の経済情勢を見通しますと、債務問題を抱える欧州経済は不透明な状況が残るものの、経済指標は好転しており、底入れの兆しが見えています。北米では企業業績が堅調に推移しており、日本経済も円高修正に伴う輸出の持ち直しなどで成長軌道に乗りつつあります。新興国の成長の鈍化傾向は続いています。世界経済は緩やかな回復基調が持続すると推測されます。

当社グループの主要事業の見通しにつきましては、情報機器事業ではオフィス分野は景気の緩やかな回復に伴い、主力製品であるA3カラーMFPは引き続き需要拡大が見込まれ、当事業の拡大を牽引すると予想されます。また、先進国ではITサービス・ソリューションや、OPSアプローチを伴ったグローバルに展開する大口顧客向け需要が拡大するものと予想され、当社も引き続き注力分野として事業規模の拡大を図ります。プロダクションプリント分野では、商業印刷向けを中心に需要の拡大が見込まれます。

産業用材料・機器事業では、ディスプレイ材料分野でノートPCの市況悪化が続き、TV市場でも需要の減退が予想される一方、スマートフォンやタブレットなどモバイル機器の需要の拡大傾向は持続すると予想されます。

ヘルスケア事業では、主力製品であるデジタルX線画像診断システムについては、カセット型DRは先進国を中心に、卓上型CRは新興国を中心に、それぞれ需要の拡大が見込まれ、当事業の拡大を牽引すると予想されます。またパナソニックヘルスケア株式会社から事業を譲り受ける超音波画像診断装置については平成26年1月からの収益貢献を見込んでおります。

このような事業環境の下、第2四半期連結累計期間における業績進捗を踏まえ、通期の業績予想につきましては、本日発表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表のとおり、以下のように修正いたします。なお、第3四半期以降の為替レートの前提は、ドル、ユーロはそれぞれ5円期初前提から円安に見直し、[USドル：98円、ユーロ：128円]とします。(5月10日発表時[USドル：93円、ユーロ：123円])

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	億円	億円	億円	億円	円 銭
前回発表予想 (A)	9,000	550	530	260	49.03
今回修正予想 (B)	9,300	580	540	180	33.94
増減額 (B-A)	300	30	10	△80	—
増減率 (%)	3.3	5.5	1.9	△30.8	—
(ご参考) 前期実績 (平成25年3月期)	8,130	406	389	151	28.52

※上記業績予想は、本資料の発表日現在における将来に関する前提・見通し・計画に基づく予想であり、リスクや不確定要素を含んだものです。実際の業績は当社を取り巻く経済情勢、市場の動向、為替レートの変動など様々な重要な要素により、これら業績予想とは大きく異なる可能性があります。

○ 定性的情報における記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

2. サマリー情報 (注記事項) に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当社は、平成25年4月1日付で、当社を存続会社とするグループ会社7社の吸収合併を実施いたしました。これにより、特定子会社のコニカミノルタビジネステクノロジー株式会社、コニカミノルタアドバンストレイヤー株式会社及びコニカミノルタテクノロジーセンター株式会社は消滅し、連結の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。